

21世紀の学会発展のビジョンと戦略を考える

日本レジャー・レクリエーション学会のこれまでの取り組みから

鈴木 秀雄（関東学院大学）

はじめに

パネリストとして与えられたテーマは、標記の「日本レジャー・レクリエーション学会のこれまでの取り組みから」である。学会設立後、第2回の学会大会から研究発表を重ね、爾來、学会員、研究者、役員としてあらゆる関わりを学会ともち、現在に至っている。

そのような関係から、今回のパネリストとしての役割を担うこととなり、学会のこれまでの取り組みから、今後の学会発展のためのビジョンと戦略を考えるうえで必要となる素材の提供がその役割である。ささやかな分析能力しか有しないが、あえて与えられたテーマから課題の整理を試みようというものである。

限られた紙面の関係から、限定し、特化して概説すれば、以下のとおりである：

1. 今までの学会における課題の整理から、これからの学会を指向してみよう

学会の「あゆみ」は、まさに学会員の獲得・増強と学会そのものの活性化に向けてのあゆみ（闘いといってもよいであろう）であったといっても過言でない。

現代社会の流れは、各世代間に存在する余暇はもろろんのこと、長寿化、高齢化のなかで、ますます余暇の実質的増加が顕著であるにもかかわらず、相変わらず社会一般の余暇機能の理解については、積極的な変容がなされず、単に仕事からの異なる状況のなかで存在するものが余暇であるとする考え方の域を脱していない。このあたりについて学会の果たすべき大きな役割が存在していることに疑いはない。特に：

- 1) 情報発信をどうするのか
- 2) 国際交流の積極的展開
- 3) 受託研究も含めた共同研究のすすめ
- 4) 学会の活性化を指向する具体的なあゆみ

などが中心となる。

戦後の経済成長の時代に形成されたレジャー・レクリエーションに関するイメージ、概念理解、感覚を、社会の流れや変化の中で、その流れや変化・進化にそ

うぐ共通言語の共通認識を求めることも重要な事柄である。学会員の研究領域の範囲内でレジャー・レクリエーション研究の発展を待っていてよいか。また、研究者個人の業績の積み重ねだけで、外延と内包は、明確になってくるのか。それらも含めて、役員人事、特に会長職などは、①Past president；②President；③Next president などとし、学会の持続的な発展を求め、改革と共に継続性も重視し、安定的な学会運営が必要不可欠であろう。

2. 学会運営の視点から見た課題から、これからの学会を俯瞰すれば

学会員が学会に期待し貢献しうる道を明らかにすると共に、学会としての会員及び社会に対する使命を果たす学会運営が求められることは言うまでもない。それらは：

- 1) 多岐にわたる広報手段の確保
- 2) 学会事務局の固定化及び輪番制の確立
- 3) 選挙制度を補完する積極的な役員の関わり
- 4) 年間計画と重点施策（長期・短期の計画）
- 5) 研究形態と領域に関わる情報交換
- 6) 財政の確保と安定化
- 7) 単年度予算による弊害とその課題
- 8) 学会大会、研究会のあり方

などの問題を整理・検討することが求められる。

3. 今後に向けた学会の具体的役割

- 1) 啓発活動・オピニオンリーダーとしての役割をどう担い果たすか
- 2) 応用科学、実践科学を扱う学会として、どう社会貢献をしていくか
- 3) J S L R Sを基幹学会として捉える研究者の確保
- 4) 学会内側からの組織組成の再考及び外部からの委託や要請・申請の賦活
- 5) 高等教育機関での専門家教育（学識集団・研究

集団) に対する学会としての検討

- 6) 新しいレジャー・レクリエーションのパラダイムの提案
- 7) 市民、国民は自衛的に、自身の生活の中の「快追求と癒し」は、感覚的にもあるバランスをとってきた。専門家の指導などによらずとも、自身の生活を如何に豊かにするかは、必然的に求め追求してきたはずだ。専門家集団として社会に向けどうアプローチしていくべきかを明確にし、役割を果たす
- 8) 学問は、後付であるからこそ、説得力を有する学会としての活動を明らかにする
- 9) 学会員及び非会員による共同研究と学会プロジェクトの構築
- 10) 社会が求めている領域へのプロジェクトとしてのアプローチ

など、多くのなすべき役割や課題を抱えるが、優先順位や、達成目標をしっかりと掲げその実行を図る組織化が必要である。

参考資料

- 1) 鈴木秀雄、学会機関誌 第32号『あゆみ』 September 1995「編集後記」
- 2) 鈴木秀雄、「学会ニュース」 No.75 March 2003 「日本レジャー・レクリエーション学会のこれから～その「志操」と「試想」～」
- 3) 鈴木秀雄、「学会ニュース」 No.78 August 2004 「レジャー・レクリエーションの知られざる力の認識」
- 4) 鈴木秀雄、(財)日本スポーツクラブ協会要介護予防運動指導者養成及び資格認定制度2004「募集要項」 <http://www.jsca21.or.jp>